

2026 年 6 月 22 日（月曜日）開催

株式会社日本製鋼所 第 100 回定時株主総会

質疑応答要旨

- Q. 装輪装甲車 AMV の受注の規模が今後拡大した場合に、当社として対応できる生産能力を整備しているのか。また、AMV は国内サプライチェーンの拡大や国産化比率の向上によって納期短縮、価格低減及び採算性の改善が見込めるのか。
- A. 防衛省からは今後の増産に向けた話が無いわけではない、増産に向けてはきちんと対応していく考えであるが、増産がいつからかは当社で決定できるものでない。
ライセンス生産については国産化比率の向上を進めている。これによりコストが下がることを期待している。ただし、技術的課題の解決やサプライチェーンの整備という課題もあるので、これらについても施策に盛り込んで対応していきたい。
- Q. AMV は国内向けの派生型のみならず、将来海外から要望があった場合、現地のニーズに応じた仕様変更や派生型の生産に対応できるのか。
- A. AMV は拡張性が高い装備品であり、様々なオプションの搭載が可能である。海外展開については、防衛省が国防に資すると判断したものかつ防衛省からの依頼があった場合に当社として対応を検討したいと考えている。
- Q. レールガンについて、その開発の進捗と今後の計画について伺いたい。
- A. 順調に開発を進めている。ただ、電源の小型化や部材の耐久性など課題はある。これに対しては防衛省、防衛装備庁と一緒に開発を進めており、現状の進捗は予定通りと認識している。
- Q. アメリカや東南アジアにおける原子力発電関連需要に対する状況を伺いたい。
- A. アメリカでは日本の対米投資と AI データセンターの建設が進むという背景もあり具体的な受注には至っていないが引き合いや技術検討の話はいただいている。
- Q. 国内外の重電メーカーは当社としては競合なのかそれともお客様なのか。
- A. 国内外の重電メーカーは当社にとってお客様である。圧力容器などの内部構造物や発電用ロータシャフトを素材として納品している。

Q. 核融合発電についてどのように関わっているのか。また、SMRの受注状況について伺いたい。

A. 核融合発電についてはITERという国際プロジェクトに対して特殊な構造材を納めている。核融合発電用の構造部材を納入することでこれに貢献できると考えている。核融合発電に限らず、高温高压の蒸気を扱う発電方法では当社の一体LPロータは非常に強みを持っているので、将来的に核融合発電においても当社の素材が活躍できると考えている。

SMRは既に受注をいただいております、室蘭製作所の生産能力を向上させて対応していきたいと考えています。

Q. 中期経営計画「JGP2028」で計画しているM&Aの検討状況について伺いたい。

A. 様々な企業のサーベイを行っているが、当社の事業規模を拡大するうえで適切なパートナーをなかなか決定できていない。海外マーケットに向けたM&Aを想定していたが、M&A先を見つけられていない。代わりにグローバル戦略本部を設立し、海外市場を5つのエリアに分けて統括を置いた。海外市場では当社の知名度が低い製品もあるので、まずは、グローバル戦略本部の活動によって当社の実力で海外展開を進めていきたいと考えています。

Q. 中期経営計画「JGP2028」を見直しするが2034年3月期のあるべき姿としている売上高5,000億円の目標も変更するのか。

A. まずは来月公表する「JGP2028」のアップデート後の目標の確実な達成を目指すことになる。その後需要が確実なものになれば目標の上積みというのも可能だろうが、現時点では検討していない。

Q. 株式分割については検討しているのか。

A. 東証から投資単位の引下げに関する要請があることは認識している。株価の状況などを勘案しながら判断したいと思う。分割を行うか否かについてはこの場ではお答えできない。

Q. 社長の後継者育成に関する考えを伺いたい。

A. 社外取締役を過半数とする指名諮問委員会において、社長のみならず取締役や役員候補者の人材プールについて、こういった層からこういった人材が候補者として出てくるのか議論及び観察をしている。取締役会における社外取締役の割合が半分となったことで議論も活発に行われており、社外取締役からのご指摘を頂きながら後継者の育成を進めたいと考えています。

Q. 新規事業について、これまでは市場調査が十分でなかったのではないか。また現在取り組んでいる新規事業の進捗状況と人材確保の状況を伺いたい。

A. これまで取り組んできた新規事業については市場調査が十分でない点もあったかもしれない、だからこそ今回グローバル戦略本部を設立して海外市場のより深いリサーチを行おうとしている。また、DX化の取り組みとしてデジタルマーケティングの手法の活用に前事業年度から取り組んでいる。

また現在、フォトニクス事業室で取り組んでいるものとして、実用化されれば消費電力を大幅に削減できる窒化ガリウム（GaN）や高速大容量通信に利用されるニオブ酸リチウム（LN）などがある。この2つを新製品としては一番重要と考えている。新たな研究開発拠点を設置する柏の葉キャンパスエリアは、多くの大学や企業の研究拠点が集まっているエリアである。このオープンイノベティブな環境で研究員のレベルアップを図っていく。人材確保の観点からも東京から近い地理的環境が専門性の高い人材の確保に寄与すると考えている。

Q. 当社役員のスキルマトリックスにおける監査役のスキルについて、監査役選任にあたって考慮しているのか伺いたい。

A. 監査役に限らず、取締役も含めてスキルマトリックスを参照しながら不足しているスキルがあるかどうかを考慮しつつ候補者を検討している。監査役については、任期が4年であるため、退任時期をふまえて監査役会とも議論しながら候補者選定を進めている。

以上